

Asia Medical Massage
Instructors Network

2010年10月
モンゴル教員研修
報告書

期間:平成22年10月21日~11月2日

モンゴル教員研修概括

2011年10月21日～11月2日にかけて、モンゴルから2名の教員を受け入れ、医療マッサージ教育に関する研修を実施致しました。今回、研修を受け入れる背景となったのは、現在6カ月の期間で行っている視覚障害者マッサージトレーニングセンター（モンゴル盲人協会運営）が、今年11月より、新たにAMINの初級医療あん摩ガイドラインをベースとした1年コースとなり、これまでの慰安的なマッサージではなく、より医療的知識を背景としたマッサージコースにすることとなったことが挙げられます。そこで、新たなカリキュラムの中で、基礎医学を教えるモンゴル伝統医療大学の教員1名と、現在モンゴル盲人協会附属マッサージ6カ月コースの教員1名の2名に対し、約2週間の教員研修を行うこととなりました。

研修は、主に解剖学や生理学などの基礎医学と、マッサージ実技を教える授業に実際に参加してもらい、教員がどのように教えているか、教材や教具、説明の仕方や確認方法などについて見ると同時に、個別にそれぞれの教員と話す機会を設けることで、理解を深めてもらうという内容で進めました。また、茨城県立盲学校へも訪問し、重度視覚障害者の数の比較的多い盲学校での教育を見学することで、本学との違いなどに触れることが出来たようです。

最後の4日間は、千葉で行われていた世界盲人連合アジア太平洋地域(WBUAP)中期総会に参加していただき、日本の事情だけでなく、アジア太平洋地域の国口での取り組みなどについても学ぶ機会を設けました。日本のようないわゆる先進国ではなく、途上国といわれる国々の活動と成果を目の当たりにすることで、良い刺激になったようです。2週間という短い期間での研修ではありましたが、今後のモンゴルでの教育に活かされることを切に願っております。

今回の受容れに際し、お忙しい中快く見学を受け入れて下さった茨城県立盲学校の教職員の皆さま、及びソニー生命保険株式会社の皆さまには心より感謝申し上げます。今回日本で見聞きしたことが、モンゴルで視覚障害をお持ちの方々の生活向上につながり、ついでにはアジア諸国の視覚障害者がよりよい環境で生活を送ることに活かされるよう、今後も可能な範囲でご協力していくことが出来ればと考えております。

2010年11月 筑波技術大学 AMIN 推進委員会

モンゴル研修員受け入れスケジュール
(2010年10月21日～11月2日)

	A	B	C	D	E	F	G
1		2010/10/21 (木)	2010/10/22 (金)		2010/10/25(月)	2010/10/26(火)	2010/10/27(水)
2							模擬授業
3	8:00	10/20 CA902 11:50発ー14:00 ウランバートルー北京 北京泊		土 日	授業見学 8:50 視覚障害者社会参加論 (長岡・石田) ↓ 10:20 あま指について講和(2) (佐々木) 鍼灸外来見学 (藤井) 学内見学 (飯塚先生)	準備等見学 8:50 あん摩基礎実習 (緒方・殿山) ↓ 10:20 フィードバック 準備等見学 13:00 生理学 (大沢) ↓ 14:30 フィードバック・実習等 (大沢) 準備等見学 16:20 手技基礎実習 (佐々木・殿山) ↓ 17:50 フィードバック	茨城盲学校見学
4	8:30		鍼灸外来見学(センター説明含) (近藤・形井)				
5	9:00						
6	9:30						
7	10:00						
8	10:30		あま指について講和(1) (佐々木)				
9	11:00						
10	11:30						
11	12:00						
12	12:30	CA925 09:25発ー13:55 北京ー成田	準備等見学 13:00 解剖学実習 (坂本) ↓				
13	13:00						
14	13:30						
15	14:00						
16	14:30						
17	15:00		14:40 手技外来特別実習 (佐々木・津嘉山) ↓				
18	15:30		16:10				
19	16:00		フィードバック(解剖)				障害補償について講和 (長岡)
20	16:30	オリエンテーション (形井)					
21	17:00						
22	17:30						
23	18:00						
24	18:30						
25	19:00						
26	19:30						
27	20:00						
28	20:30						
29	21:00						
30	不在者				緒方		緒方
31	時差						
32	宿泊先	つくば研修センター					
33							
34							
35							
36							

モンゴル研修員受け入れスケジュール
(2010年10月21日～11月2日)

	A	B	C	D	E	F	G	
37		2010/10/28(木)	2010/10/29(金)		2010/10/30(土)	2010/10/31(日)	2010/11/1(月)	
38								
39	8:00							
40	8:30							
41	9:00							
42	9:30							
43	10:00	あん摩実技他 (藤井)	ソニー生命 ヘルスキーパールーム見学					
44	10:30							
45	11:00							
46	11:30							
47	12:00							
48	12:30							
49	13:00							
50	13:30	学内見学	2010WBUAP中期総会出席(10月29日～11月1日) 会場:ホテルグリーンタワー千葉(10月29日～10月31日) すみだ産業会館サンライズホール(11月1日)					
51	14:00	13:30-45 図書館(近藤)						
52	14:30	13:45-14:45 小野瀬						
53	15:00							
54	15:30	形井担当						
55	16:00						日本財団表敬訪問	
56	16:30							
57	17:00							
58	17:30							
59	18:00	送別会						
60	18:30							
61	19:00							
62	19:30							
63	20:00							
64	20:30							
65	21:00							
66	不在者							
67	備考2							
68		つくば研修センター	ホテルグリーンタワー千葉					

10月22日（金）

8：30～10：30

○東西統合医療センター見学

対応者：近藤（医療センター）、形井

学生の臨床実習の場ともなる東西統合医療センターを見学した。日本で視覚障害者に対して行われている鍼灸マッサージの教育が、医療に基づいて行われ、本学では東西統合医療という形で研修員の一人が西洋医師でもあり、モンゴル伝統医療大学の教員ということで、日本で行われている鍼灸治療に大いに興味をもったようである。

11：00～12：00

○あん摩マッサージ指圧について導入講義①

対応者：佐々木（鍼灸学専攻）

あん摩マッサージ指圧について、あん摩、マッサージ、指圧がそれぞれ導入された歴史やその特徴、基本手技などについて個別講義を行った。モンゴル盲人協会でも日本の盲学校を卒業した講師が教育を行ったため、手技に用いる用語など、そのまま日本語で覚えていることもあり、基礎的なことはこの回で終了し、次回はもっと応用的な手技を学ぶ講義とすることにした。手ぬぐいの使い方などについては、戸惑いも多少みられたようである。また、指圧についての講義はあまり受けていないとのことで、指圧に大変興味があるようであった。



13：00～14：20

○解剖学実習

授業担当者：坂本（鍼灸学専攻）

1年生の解剖学の授業に実際参加し、講義の様子を見学、体験した。解剖模型やテープを使用した筋肉の走行確認作業等の実習をし、モンゴルでの教育にすぐに活かすことの出来る工夫を学んでいた。

14：30～16：10

○手技外来特別実習（ボランティア実習）

授業担当者：佐々木・津嘉山（鍼灸学専攻）

学生のボランティア実習を患者として体験した。実習では、問診も行い、日本の臨床実習で行われている内容を一通り体験することが出来たようである。

16:30～

○解剖学教員との意見交換

対応者：坂本

授業の見学で、気になった点等の確認をするため、個別に解剖学教員と話す機会を設けた。教室内にある、手作りの模型についてや、授業中に使用していたテープ、粘土などの用具について、模型が不十分な状況でどのように教えていくべきかなどの、アドバイスを受けた。

10月25日（月）

8:50～10:20

視覚障害者社会参加論

授業担当者：長岡（支援センター）

引率：楠山

学生と共に、視覚障害者の特にリハビリテーションについての講義を聴講した。視覚障害者を取り巻く問題等について理解を深め、また、日本とモンゴルとの共通点や相違点などについて考えるきっかけになったようである。

11:00～12:00

あん摩マッサージ指圧について導入講義②

対応者：佐々木（鍼灸学専攻）

モンゴルからの研修生の要望により、前回よりより実践的な内容で、あん摩マッサージ指圧についての個別講義を受けた。特にタルクの使用方法や、興味の強かった指圧について、積極的に質問する姿等が見受けられた。

13:15～15:15

鍼灸外来見学

対応者：藤井（鍼灸学専攻）

鍼灸治療の見学を行うと共に、実際にどの程度のマッサージ技術があるのか、教員に対しマッサージをすることで確認した上で、技術指導を行った。教員の感触としては、あん摩マッサージ指圧の基礎の部分を一度指導する必要があるとの事であった。

15:30~16:00

補償機器類の説明

対応者：飯塚（支援センター）

視覚障害を補うために、日本で使用されている機器について、実際に触れながら説明を受けた。それぞれの機器は、高価なものが多く、すぐモンゴルで導入出来るものばかりではないが、アイディア等についてメモをとっていたようである。

10月26日（火）

8:50~10:20

あん摩基礎実習

担当教員：緒方・殿山（鍼灸学専攻）

1年生のあん摩基礎実習の講義に参加してもらった。

13:00~14:00

生理学

担当教員：大沢（鍼灸学専攻）

14:30~

生理学教員との意見交換

生徒と共に講義をうけながら、生徒がどのように学習しているか見学をした。見学には、日本財団からも2名参加した。講義の感想としては、教科書の種類（普通・拡大・点字等）や教室内に拡大読書器が設置されていることを除けば、視覚障害者に対する指導だからといってそれ程特別なことをしているわけではなく、少人数で、ひとりひとりの理解度を把握しながら進めていくことが重要であるというように理解したようである。そのため、さしあたっては教科書や教材の整備が必要であるとの見解を示した。

16:20~17:50

手技基礎実習

担当教員：佐々木・殿山（鍼灸学専攻）

学生のボランティア実習（一般のボランティア患者さんに対し、鍼灸マッサージの治療を行う）に、患者として施術を受けた。

10月27日（水）

9:30~12:30

茨城県立盲学校見学

これまで、茨城県立盲学校には、特に教員の派遣という点で、積極的にご協力いただいていたが、今回の見学も快く受け入れていただいた。

まず始めに、学校の概要をご説明いただいた後、幼稚部の施設～普通科までを案内してもらった。1人の教師に対し、数名の生徒というかなりの少人数で教育を実現している事が強く印象に残ったようである。その後、理療科の見学を行い、衛生学と解剖学の授業見学を行った。また、実技授業にも参加し、盲学校の生徒さん達との交流をすることが出来た。リラックスした雰囲気を楽しみ時間を過ごしていたようである。

15:30~17:00

障害補償について講和および障害者教育についてディスカッション

担当教員：長岡・石田（支援センター）

まず、長岡教授からは、視覚障害者の情報アクセスについて日本の現状を紹介した。PCやその他の情報機器について、ソフトウェアや、利用技術の指導体制、国からの補助などについて紹介された。特に強調されていたこととして、国からの支援ももちろんあるが、日本ではまだまだボランティアの力による支援が非常に重要であるとの事であった。



その後石田教授を交えて、ディスカッションが行われた。まず、この2週間、日本での研修を行いどのような事を感じたかということについて、モンゴルの研修生からは、①視覚障害者に対応したインフラの発展度合い、例えば点字ブロック等が日本とモンゴルでは大きく違う、②盲学校の教育環境の違い（モンゴルには1つしか盲学校がなく、また幼稚部もない）などが挙げられた。また、マッサージ教育を行った後の就業については、モンゴルではこの5年間に120名のマッサージ師を排出し、その8割がウランバートル市内のベストマッサージ（モンゴル盲人協会が運営）で働く、又は、地方で開業するなどして職に就くことが出来ている。しかし、今後も卒業生が出る度にマッサージ店を開くということ、いつまで続けられるか分からないということもあり、新たな就業の可能性も開拓していかなくてはならない。その一つとして、今回日本で学ん

だヘルスキーパーを導入出来ないかと考えている。具体的には、オフィス等の一般企業というのは、モンゴルで導入してもらうのは現状として難しいかもしれないが、鉱山など肉体労働をしている方々に対して行うことは可能なのではないかと思う、と述べられた。また、治療的なマッサージを教育していくことが出来るように発展させていきたい。

石田教授からは、日本の視覚障害者の労働者のうち3分の1が鍼灸あん摩マッサージ師である。現在日本ではその割合を変えていこうとしているが、なかなかうまくいっていないのが現状である。教育機関を新たにしていこうとするのであれば、その時点で、就業もどのようにするかという事を具体的に考え、行動していくことが必要である。また、インフラや技術は一つ一つやっていけばいずれ追い付く。大切なのは人であり、自立＝一人ですべて出来なければならないというわけでないという考えを、サポートを受ける側もする側にも浸透させていくことが重要であると述べられた。

10月28日（木）

10:30～12:00

あん摩実技

対応者：藤井（鍼灸学専攻）

学園祭に向け、学生らの自主練習に参加し、あん摩の実技実習が行われた。学生の一人がモンゴルの民族衣装を着て歓迎するなど、和やかな雰囲気が進められた。

13:30～15:00

学内見学（図書館、点字印刷室等）

対応者：近藤（図書館）、小野瀬（支援センター）

図書館および、学内の支援センター施設およびボランティアの方々の仕事風景等を見学した。

15:30～16:30

まとめ

対応者：形井（鍼灸学専攻）

今回の研修の感想や今後の抱負等についての話。

16:30～

修了式（修了証書授与および写真撮影）

10月29日（金）

10:00～11:00

ソニー生命保険株式会社ヘルスキーパールーム見学

対応者：人事部 福山氏

東京青山にあるソニー生命保険のヘルスキーパールームを見学した。この日は月末ということもあり、ヘルスキーパーとして働く方々が全員事務的作業を行っていた。マッサージ施術だけでなく、データ管理や発注等、運営に関わるすべての作業を、視覚障害のある社員で行っているということに、大変興味をもったようである。



14:00～

WBUAP 女性フォーラム参加

10月30日（土）～31日（日）

WBUAP 中期総会参加（ホテルグリーンタワー千葉）

4年に一度開催されるアジア太平洋盲人福祉会議が、千葉で行われ、世界各国の視覚障害関連の方々が集まった。会議では、視覚障害者の平等な就業機会と生存権の保障について、各国からの発表があった。AMIN 推進委員会も、藤井亮輔准教授が、シンポジウムにて、日本の就業状況についての発表を行った。

モンゴルからの研修員らにとっては、なかなかこのようなイベントに参加する機会もないということで、視覚障害者を取り巻く課題や、それに対する各国の取り組みなどを知る良い機会になったとのことであった。



11月1日（月）

～13:00

サイトワールド見学

14:30～16:00

日本財団表敬訪問および研修報告

対応者：石井氏、千葉氏

最後に、日本財団を表敬訪問し、今回の研修について報告を行った。モンゴル盲人協会附属トレーニングセンターが、新たな形でより医療的な知識を学ぶことができる環境を整えつつあることに対し、激励の言葉を頂いた。



以上

（文責 楠山）